



Title	はじめに
Author(s)	高安, 啓介
Citation	a+a 美学研究. 2019, 13, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/90090
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

デザイン新潮流

はじめに

デザインの仕事がいかに変化しているならば、デザイン概念もまた昔と同じではありえませんが、今日の事情に照らして、デザイン概念だけでなく、工芸・装飾・建築・景観・環境などが一体何であるのかを掘り下げて問うてみたいと思います。たしかに、この静かな変化について知らなくても、デザインの仕事はできるでしょうし、デザインの研究もできるでしょう。けれども、私たちの思考の前提がどのように変化しているか自覚できたとき、何を克服すべきなのか、何を維持すべきなのか、考える糸口が見出されるにちがいありません。そしてそのためには、現在起こっている事象に目を向けるだけでなく、各分野の歴史をふまえながら、考えかたの変化をたどる仕事もとめられます。それは、人文系の学問の強みが生かされるところでしよう。

本号は、新しい時代のデザインと諸概念の変化にかかわる論考を集めています。たとえば、最初の論

文は、3Dプリンタの登場によって工芸の概念も変化しつつあるのではないかと問いに導かれています。これに続く論考としてエッセイも、執筆者それぞれの見地から、多かれ少なかれ、デザインにまつわる諸概念の揺らぎに触れています。各論考はなるべく、対象の定義など、各分野の基本前提から論を起こしており、多くの読者にとって分かりやすくなるよう努めています。基本前提はむしろ問い直されるべき事柄であり、各論がどのように問い直しを試みているかが一番の読みどころです。物事を定義づけようとする定義からこぼれ落ちるものが出てくるものです。ならばあえて定義から始めることで、定義にそぐわない傾向をみとめるという行きかたも有効ではないかと考えました。

今日のデザインの傾向について言うのは難しいかもしれませんが。〇〇デザインといった呼び名が無数にあるように、現代では無数の実践がおこなわれています。けれども、次のような必要について考慮するならば、新しい動きが分かるはず。第一に、製品どうしであれ、人間どうしであれ、独立した個体どうしの関係そのものを考え直すこと。第二に、市場経済になじまない分野においても創意工夫がなされること。第三に、目先の必要にとらわれすぎず、誰も考えないようなことを試みることです。現在、デザインの分野ではさかんに問題解決がわれていますが、一步引いて本当の必要とは何なのかについて深く考えてみるのはいかがでしょう。生み出す人も、見つける人も、先を行く人も、昔を守る人も、現代においてデザインの仕事とは何なのか、現代に生きる私たちにとって良いデザインとは何なのか、立ち止まって考えるための手がかりとなればと思っています。

高安啓介

本号は、本論は科学研究費補助金(課題番号16K12672)および大阪大学大学院文学研究科比較デザイン学クラスタの助成を受けた研究である。